

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 3月 17日

事業所名 スケッチブック有田

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	1	パーティションで区切ったり、座る方向や密にならないように工夫している。	学習スペースと活動スペースに余裕があるわけではない。
	2	職員の配置数は適切である	8	0		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8	0		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	0		改善が必要と感じた事項については、毎日のミーティングで提案し話し合いを行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0		なるべく保護者の意向に沿うように改善を行っている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	0	年間を通し、外部からの講師にも研修や評価を行い、必要に応じてアドバイス等も貰っている。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	全体研修以外にも、必要に応じて事業所内での研修を行っている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	アセスメントシート、家庭調査表、聴カレベルを半年に1回記入していただいている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	0		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	ミーティングで提案を全体に示し、意見を広く集めてから決定している。	案を出して、意見を出し合ってからからの改善のサイクルで実施
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	利用児が楽しんで活動に取り組めるように、広くアイデアをスタッフ全体から募っている。	ミーティングで改善点を確認。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8	0	平日の活動で練習したことを、長期休暇を利用して実践している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	集団活動の中においても、使う材料やルールの確認等、個別対応している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	0	毎日行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	2	次の日のミーティングまでに必ず共有している。	報告はその日のうちに、スタッフ間の共有は翌日のミーティングで行うことが多い。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	毎日行っている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8	0	相談支援員との三か月毎のモニタリングと保護者と半年毎のモニタリングを行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	8	0		研修等で確認しながら行っている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0		情報を吸い上げてから参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8	0	毎日の担任との引継ぎで情報共有を確実にするために、メモを必ず取り完了するようにしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	8	0		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8	0	児童発達支援事業所との情報交換に努めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	8	0	福祉サービス事業所へ移行する利用児の該当がないが移行する場合に情報提供できるように準備はしている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0	8	定期的な専門家の助言や指導は受けている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	8		コロナウイルス感染対策のため、地域住民との交流を控えている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	8	0	さわら障がい福祉ネットワーク等に参加している	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	送迎時を利用して、保護者と共通理解が持てるように努めている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	8	0	手話や指文字でのコミュニケーションの必要に応じて、送迎時のスタッフ配置や利用児の様子を手話等も使い伝えるように努めている。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	変更があった場合は、丁寧な説明に努めている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	スタッフ間で情報を共有してから、必要な助言や支援を行うようにしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	8		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	苦情窓口を1つにして対応。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	年4回事業所お便りを作成・配布。利用日の連絡帳記入や送迎時に報告・発信を行っている。	
	35	個人情報に十分注意している	8	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	あらゆる手段でお互いの意思の疎通ができるように、視覚的に表すことを意識し、手話、口話、筆談等を行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	8		本年度もコロナウイルス感染対策のため、地域住民との交流を控えている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8	0		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	年3回の避難訓練の実施。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	全スタッフ虐待防止の研修参加。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8	0	身体拘束は基本的に行わない。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	0	アセスメントシートに保護者より記入してもらい対応。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	スタッフ全員で回覧。	